

令和4年度 大阪府立高津高等学校 第3回学校運営協議会 会議録

日時： 令和5年3月22日（水）18時30分～19時30分

場所： 本校校長室

出席者： 委員 森田 英嗣（大阪教育大学教授・副学長）＜オンライン参加＞

新崎 国広（大阪教育大学教授） ＜オンライン参加＞

安田智則（PTA会長） ＜オンライン参加＞

川端秀治（前PTA会長）

事務局 立川猛士（校長）、佐保田 真一（教頭）、熊本浩恵（事務長）、

前川 紘紀（首席）、二階堂泰樹（進路指導主事）、

尾崎 知佐子（記録係）

1. 挨拶(校長)

・近況報告

コロナ禍でオンライン授業から始まった3年生が卒業。新入生は、3/20に合格発表。

SSH第IV期獲得、本校の取組を文部科学省も評価。

- ・本日は、学校教育自己診断をもとに、令和4年度学校評価(案)、令和5年度学校経営計画(案)についてご審議いただきたい。

2. 学校からの説明

①大学合格状況について＜中間報告＞（進路指導主事より）

・大学入学共通テスト

75期生共通テスト3年め、昨年度に比べ全国的に平均点は上がり問題は易化、一昨年度よりは難化した。文系教科が頑張った印象。理科は得点調整（生物・化学）、数学は昨年度より平均点が上がった。政経・世界史難化。問題文の量が増加傾向。

平均点：644.5/900点（305名）文系644.5(132名)理系636.3（172名）

・出願状況

難関3大学前期日程出願者数：京大（23）、阪大（51）、神大（102）

チャレンジ志向、京大増、阪大減、神大(特に後期)10名増（京大チャレンジ層が出願）

・合格者数（3/22時点判明分）

難関3大学の本年卒+過年卒の合格者数（ ）は現役

京大10(8) 阪大31(20) 神大35(32) = 76 75期生のみ60名(68期に並ぶ数)

京大チャレンジ組大健闘、阪大理系減少、神大(後期)6名合格と健闘。

75期生国公立149名

- ・75期生はコロナに始まりコロナに終わった学年。1年生の頃から担任団が強く言ってきた

「学校中心」「最後（後期）まであきらめない」という学年の方針が現れた結果と推察。

<感想>

委員：先生方の努力の成果がよく分かった。

委員：筋の通った方針が貫徹された結果があらわれた。

②令和4年度 学校教育自己診断結果について（資料は事前に配布）

<質疑応答>

委員：全体的な感想として、大変ポジティブな反応。教職員の力の合わせ方が充実していると思うが、教職員⑬（自治会活動）が（過去2年に比べて）ポイントを下げている。コロナの関係なのか分析を聞かせてほしい。生徒は主体的に活動されているとは思いますが。

校長：行事を行う上で、教職員側が支援する部分と自主性を活かす部分のバランスが大切。コロナ禍から今後変化していく中で、生徒の力量を高めるしかけが必要。

学校体制の中で自治会をどうしていくかは課題。

委員：先生方の反応はいい。力を合わせて指導を充実させてほしい。

③令和4年度学校評価（案）ならびに令和5年度学校経営計画（案）について

③-1 令和4年度学校評価（案）

校長：令和4年度学校評価（案）3. 本年度の取り組み内容及び自己評価について

- 1 (1) ア. 教員の指導技術の向上、自己評価 (1) (ア) リーディング GIGA ハイスクール (アドバンスクラス) 指定校へ(来年度から3年間)、全 HR 教室に新たなプロジェクター、電子ペン/チョークも使える黒板を設置。

モデル校としてどのように実践していくのかが問われる。生徒アンケートにおいて、教員の ICT 活用の数字は伸びている。

- イ. 講習・補習についての (1) イ. 土曜講習、ウ. KITEC、科学的素養を高める、共に達成している。学校教育自己診断（生徒⑧土曜講習など）は、3年のみ 93% と他学年（2年 74%、1年 62%）とは差が出ている。3年は希望の進路が目前にあることが一因と考えられるが、1・2年生において講習への意識を高める必要あり。3年生で、学校に来て勉強している生徒は確実に進路結果が出ている。1・2年生をこのような状態にどのように持っていくかが課題。

- 2 (1) 人権尊重と社会参加力の育成、自己評価 (1) 高津キャラバン隊は、29 クラブ実施 (3/19 現在) 残りは春期休業中に実施予定、東大阪支援学校との交流は3年ぶりに行うことができた。来年度も続けていきたい。部活動も加入率は一定の高さを維持。体育祭や文化祭など行事の満足度も高いが、自治会とどのように絡んでくかが課題。

- 3 (1) 学校の組織的運営について、校務の効率化及び情報共有、自己評価 (1) 各分掌や学年・教科などの円滑な連携などに対する肯定的意見は前年と変わらず (62%)、学校運営に参画しているに対する肯定的な意見は (83%) 前年度比 17% 向上した。各分掌・教科など横の繋がり、情報共有ができていないという課題が残っている。多忙な中、それぞれがどんな動きをしているのか捕捉することは難しく、スケジュールを見るだけでは分からないので、今年はちょっとした試みとして玄関にデジタルサイネージを置いた。今日はこんなことをやる、こんなことがあったなど学校に先生が入ってきた瞬間にわかる、さりげない時間の中で情報共有できるようにしていきたい。また、来年度から首席 3 人体制にして、効率的に分掌や教科、学年団の風通しをより良くしたいと考えている。
- (3) 校内研修に関する肯定率 (75%) を高めたかったが変化はなかった。一方、ミドルリーダー育成に関する肯定率は目標を 10% 上回っている。経験年数の浅い教員に特化した研修はある程度機能したが、働き方改革の中で、全体研修をする時間を取ることを遠慮した面あり。全教職員に資するような研修を有効に入れていく必要あり。
- (4) 教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談に対する肯定率は 66% から 81% に上昇、ストレスチェックの総合健康リスクは 16 ポイント低下 (改善)。
ストレスを軽減しながらどのように働き方改革を進めていくか、今後も課題。

<質疑応答>

委員：高津高校の強みと課題について両方をバランスよくご説明いただいた。バランスを見ながら強みを伸ばしつつ、課題を解決していくことができなければならない。課題ばかり見ていると解決したら強みもなくなってしまうこともある。両方を見ていくことが重要。研修の話について、先生方の肯定率を 75% 以上に上げていきたいとのことだが、学校で何か研修を準備することで、肯定率を上げることと同時に、先生方の自主的 (自発的) な研修もあっていいのでは。すでにそのようなことをされているのかもしれないが、組織された (設定された) 研修と自発的な研修の面から校長の考えを聞かせてもらえるとありがたい。

校長：若年層の中では首席の働きかけもあり、自分たちで取り組んでいる部分もある。経験の浅い先生方が自分たちで集まって学校の課題を共有したり、教科指導力を向上するために互見授業をする等。

学校全体の取組としては、観点別評価についての研修を 2 回実施。

みんなが共通して悩んでいることについての研修を組織的に実施する必要あり。

ICT の使い方においても、こんなこと今更聞けないようなことについて、校内システム PT を中心に研修会を不定期に実施。

委員：戦略的に考えられている。数字が（今後）どう動くか楽しみ。

委員：校長のリーダーシップ、フォロワーシップ、先生方との信頼関係がプラスに見える、実績に重なってくるということがよくわかる。強みと課題について分析・説明していただきとてもよく分かった。自分の専門である安心で安全な学校環境について質問させていただきたいのは、①コロナの関係で精神的にしんどい生徒、その生徒の状況などに対してどのように対応しているのか、②教職員の資質向上のところの研究授業の取組について工夫について聞かせてほしい。

校長：①について学校教育自己診断（⑤いじめ対策）教職員の肯定率が94%これはかなり上がっている。例えばいじめ対策委員会などをつぼみの段階で開き、いじめかどうかわからない部分も含めて迅速に対応している。生徒の中で起きていることをすべて捕捉できているわけではないが、大きな事案につながりそうなことは捕捉できる。それ以外でくすぶっている部分で生徒の捉え方と、（生徒⑩いじめについて66%）と教員の間で乖離がある。できる限りそこをキャッチする精度を上げ、アンテナを高くすることをより進めていく必要あり。先生方の意識として、迅速に対応することが定着してきた。

②教職員の研修に関しては、校内システムPTでプロジェクターを設置している他校の視察を実施。それをどのような形でおろしていくか計画している途上にある。実際どんなスタイルが本校に合っているのかということを経営的に考え、PTでもんでから教職員におろしていこうと考えている。

委員：生きづらさを抱えている生徒に対し、それが大きな問題になる前に予防的に関わっていく、日頃の教員と生徒の関係性をお話いただき安心した。

委員：コロナの中で先生方は、大変な思いをされて生徒に向き合ってくられたと思う。心からお礼を申しあげたい。

③-2 令和5年度学校経営計画（案）

教頭：1めざす学校像、中期的目標については承認いただく形となる。よろしくお願ひしたい。

校長：1めざす学校像、2中期的目標についても変更なし。めざしていく方向は決まっている状況。達成が難しいなど色々なことが出てくると思うが、方向としてはこのままの状態を進めていきたい。ただ、いかにして先生たちと情報共有し、風通しを良くしていくかが課題。生徒に資する部分で、色んなチャンネルを設けていることで教員に負担をかけているが、その取組が生徒の力を高めていることは事実。先生たちのやりがいにつながるよう校長としてリーダーシップを発揮し、理解していただきながら学校運営をしていきたい。基本的には今年度と来年度の目標は変わらないと考えている。

委員：2中期的目標2（2）自主的活動と規律・規範意識の向上について、貴校の学生

に限らず、大学1回生は、学校に合格することを目的にしてしまっている。その後の課外活動、ボランティアに関して積極的、熱心ではない学生が多い。どこの大学に進学したかをタスクゴールにするのではなく、その学校の中で何をしたいのか、どういったことに取り組みたいのかその部分についても在校中に意識化できる取組をさらに充実させていただきたい。

事務局：75期生は、1年時から学校中心、ゴールは大学合格ではない、もっと先の大学生活、就職、その先の進路実現、無限大の未来に向かって大学がある、大学入試は通過点だと3年間強く言ってきた学年。薬学を学びたいから〇〇大学に行くなど、自分のやりたいことができる大学を見つけられた生徒も多かったのではないかと思う。今後ともそのような進路指導を心掛けていきたい。

委員：貴校の生徒さんは、これからの社会のリーダーになるという意識を持って学習し、進学をして、社会に出ていく人たちなので、ぜひその思いみたいところをこれからもご指導よろしくお願ひしたい。

委員：2点お願ひしたい。①令和5年度計画変更なし、これまで通りの取組をさらに強化していくということは評価したい。同時にコロナ感染症法が2類から5類に分類されると学校の運営にどのような影響があるのか、見通しを伺えればありがたい。②スクールミッションについて、スクールミッションと計画は連動していると思うが言及しなくていいのか確認させていただきたい。

校長：①毎日行っている健康チェックについて、発熱しているか・していないかだけでなく、心の状況の捕捉ができてい部分がある。分類が変わっても、その機能を維持しなければならない。現在とは別の形でどのように集約するかが課題。例えば日々ではなく一週間単位にするなど、担任の負担を軽減しながら、生徒の心の状況をキャッチしていく。それができなければ後で大きな事案に発展する。コロナ前に全てを戻すのではなく、心の悩みを抱えている生徒を捕捉する仕組みは、この機会にうまく残していこうと考えている。様々な教育活動の中で生徒の心の動きを捉えられるかが大事。安心安全な学校づくりに関しては、本年度から配置されたSSW（次年度も継続）、SCもフル稼働で上手く活用していく。保護者の方も子どもさんを育てる中でかなり悩んでおられるので、この何年間かで培った経験を踏まえて、外部人材を上手く活用していきたい。

②スクールミッションについては、「自由と創造」「日新日進」がベースにある。府教委の府立学校の魅力化にかかるアンケートで、ほぼすべての生徒が本校の校風校是にあこがれて入学してくるという結果が出ている。これが本校の最大の特徴であり、それを踏まえて教育活動が成り立っているということを教職員と共有しながら今後も進めていきたい。

委員：スクールカウンセラーは、先生たちの相談にも乗るということで、ぜひそのあた

りも充実させてほしい。

※質疑応答・討議の後、令和5年度の学校運営方針（案）について、承認された。

4. その他

<全体を通しての意見・提言>

委員：教職員、校長が協働してチーム学校が機能していることがよく分かった。

委員：特にありません。成果が上がっている部分も確認できた。この方向でより強化され、邁進してほしい。

委員：大丈夫です。

校長：本日はありがとうございました。1年間この学校で校長をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。府立学校をどう将来に繋いでいくか、文理学科、高津をどう繋いでいくかが大切。ただ、高津だけが良ければではなく、本校の好事例を他校へ普及させることによって、府立学校全体が活性化すれば良いと思っている。「自由と創造」のもと、高津が創造して他校にモデルとして参考にしてもらいようすすめていきたい。今後ともご支援をお願いします。